

自動操縦ドローンや水管理システムによる 効率的な営農体系の確立を目指して

稲作

スマート農業で
目指す地域の姿

- ・作付面積の約2/5が水稻で、農家戸数の減少や担い手の高齢化が進行
- ・ヘリ防除作業を担うオペレーターの不足等、労働力減少への対応が課題
- ・ドローンや水管理システムを活用し、効率的な営農体系の確立を目指す

地域での取組

美唄市を事務局とした美唄市ICT農業推進協議会により「次世代につなぐ営農体系確立支援事業」等を活用し、自動操縦ドローンによる防除作業や水管理システム（自動給水栓等）による省力化等について実証

実証試験では、無人ヘリを用いた防除体系とドローンを用いた防除体系との所要時間の比較や、水管理システムの設置の有無による作業時間の変化を検証し、作業体系の確立に向けた基礎データを取得

今後の実証試験において、無人ヘリとドローンを組み合わせた防除体系の検証を行い、女性農業者や他産業のオペレーターなど多様な人材を活用する営農体系の確立を目指す



実演会・展示会の様子

取組の効果

1か月における水管理回数

作業	回数	時間
入水	12	2.4
出水	12	2.4
確認	19	3.6
合計	43	8.0

2haの圃場における実測値(7月)

慣行圃場では、水管理のために1か月間に43回往復



水管理システム
で自動化すると

圃場まで往復しなくても、一定の水深を確保でき慣行圃場と同様の水管理ができる

スマート農業で
1ha辺り4時間の
省力化が見込める

活躍が期待される農機

自動飛行による農薬散布の作業効率化と適期防除による品質と収量の向上が期待できる



農業用ドローン



水管理システム

圃場の水位や水温を自動でセンシングし、遠隔地からの確認・操作や自動制御を行える機能があり、水管理の省力化が可能に

もっと知りたい

美唄市ホームページ上で、「美唄市ICT農業推進協議会」による取組内容について公開中です。

美唄市 スマート農業



ホームページで
スマート農業の
魅力を発信中！

